

米子市立山陰歴史館

# 歴史館だより

2024. 10. 10 vol. 11



歴史館のマスコットキャラクター  
れきくん しーちゃん かんくん

## 企画展「いつもはしまっていてある民具展」 ～民具でたどる郷土の暮らし～

民具は地域に受け継がれてきた貴重な資料です。郷土の暮らしや産業を支えてきた民具と、それに関連する写真や資料を展示しています。



令和6年 10月27日(日)～1月13日(月・祝)  
[毎週火曜日及び年末年始(12/29～1/3)休館]

開館時間：午前9時半～午後6時(入館は午後5時半まで)

会場：米子市立山陰歴史館 第1展示室

観覧料：一般300円(16名以上の団体は1名250円)

※70歳以上の方、大学生以下、障がいのある方(介助者1名を含む)は無料

主 催：米子市、米子市歴史館、(一財)山陰文化財団、(一財)米子市立山陰歴史館

11月16日(土)、17日(日)は  
「関西文化の日」でどなたも無料です

ワークショップあり  
詳しくはチラシ裏面をご覧ください

●会場・問合せ先：米子市立山陰歴史館 鳥取県米子市中町20番地 TEL:(0859)22-7161



山陰歴史館 HPP 公式 XQR コード

令和6年度米子市立山陰歴史館企画展

## いつもはしまっていてある ～民具でたどる郷土の暮らし～ 民具展 2024

令和6年 10/27 ▶ 令和7年 1/13



民具とは、人々が日常生活に必要で作り、長い間使ってきた道具のことで、地域に受け継がれてきた生活を伝える貴重な資料です。米子市立山陰歴史館の民具はすべて市民の皆さんから寄贈してもらったもので、主に昭和時代の暮らしを紹介する常設展示で活用しています。

今回の企画展では、普段展示しきれない、いつもは収蔵庫にしまっている民具を中心に、写真や関連資料とともに紹介し、郷土の暮らしの歴史を知ってもらう機会とします。

民具ワークショップ

### 紺織り体験

令和6年 開催日：11月16日(土)

開催時間：午前10時～12時

午後1時～3時

紺織り、糸紡ぎ、機織りの体験ができます！

参加費：無料(事前申込不要)

※11月16日は関西文化の日で観覧料も無料です

協力：鳥浜紺保存会

参加無料  
です!!



山陰歴史館 HPP 公式 XQR コード



### 交通アクセス

○JR 米子駅より徒歩 20 分  
○米子駅前バス・ミカドから各方面のバス「米子市役所前」下車すぐ

○米子駅よりタクシー約 20 分

○山陰道米子南より市街地方面へ約 10 分

※米子市役所駐車場をご利用ください。駐車場を受付へ指示していただきますと、2 時間まで無料になります。

### 問合せ先：米子市立山陰歴史館

※毎週火曜日、年末年始(12/29～1/3)休館

開館時間 9:30～18:00(入館は 17:30 まで)

〒683-0822 鳥取県米子市中町 20 番地

TEL:(0859)22-7161 FAX:(0859)22-7160

## 米子歴史絵巻 「能楽の夕べ」 報告

米子歴史絵巻は、米子市内の史跡を舞台にして伝統芸能の公演を開催することで、文化遺産の保護活用と普及を目指しています。今年で 11 回目の歴史絵巻は、国史跡米子城三の丸跡を会場にして「能楽の夕べ」を開催しました。出演は京都の観世流の河村能舞台の能楽師の河村和貴や橋本光史、宮本茂樹らによる能の仕舞いを演じていただきました。また最後には河村和貴・和嘉親子により仕舞い「橋弁慶」を能衣装を着けて演じていただきました。

当日は天候が思わしくなく、開演直後まで雨が落ちていましたが、午後 6 時の開演時にはピタリと止んで幽玄な舞台が展開されました。入場は当日先着受付でしたが開演前から観客が並ばれて、定員越えの 220 人の方で満席でした。



仕舞い 源氏供養



仕舞い 橋弁慶

## 館蔵品展 「昔のあそび」展 報告

双六を中心に絵本や紙芝居など昔のこどもの遊び道具なども展示しました。時代とともに子供のあそびは変わっていきます。今回展示した双六は、江戸時代から昭和 40 年代にかけてのもので、その多くが当時の雑誌などの附録としてつけられていたものです。歴史、名所、軍事、少女物、漫画物など様々なストーリーで創られており、創られた時代の歴史的な背景や文化を知ることができます。また、双六の他に紙芝居、絵本、幻灯機、コマ、竹とんぼ、めんこ、将棋など昭和前期のあそび道具を合わせて展示しました。



展示風景と展示した双六



## 展 示 ・ 収 蔵 品 紹 介

### 2階 展示室 昭和の冷蔵庫

歴史館 2 階の常設展示室では、明治・大正・昭和時代の暮らしで使われていた様々な生活用具を常設展示しています。

このコーナーの中で、昭和時代に使われていた冷蔵庫 2 点を紹介します。

左側の冷蔵庫は冷却用に氷を使う冷蔵庫で、大正から昭和時代の中頃まで使われていました。また、冬には保温庫としても使われたようです。

右側の冷蔵庫は初期の電気冷蔵庫です。日本で初めて電気冷蔵が発売されたのは、1930 年（昭和 5）のことです。その後、電気冷蔵庫は白黒テレビと電気洗濯機とともに「三種の神器」として生活の中で珍重されました。



展示の冷蔵庫

### 寄贈資料の整理作業報告

山陰歴史館へ市民の方からの資料の寄贈が毎年数十件あります。寄贈品の点数は単品や数千点に上るものもあり、資料整理が追いつかないのが現状です。今年度上半期は 8 件の寄贈がありました。

寄贈資料例を挙げますと、因美線鉄道鳥取用瀬間開通記念絵葉書他鉄道関係資料 13 点、木製冷蔵庫、金属製オイルカイロなど 14 点、第 1 回から 50 回までのポスター、Tシャツ、ゲストのサイン色紙、開催写真など「がいの祭り関係資料」71 点などがあります。

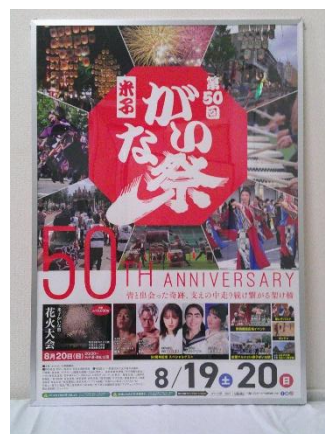
また、現在整理中の寄贈資料で点数が多いものは、政治家・足鹿寛が残された農政関係図書、日記、写真、手帳などの政治活動を物語る資料と、郷土史家の畠中弘が生前収集された図書、拓本、地図、絵葉書、古文書、写真などの歴史資料で数千点に上る資料です。



整理中の畠中資料



がいの祭り資料



## 令和6年度の主な展示と事業

事業名	内容・入館料・入館者数	開催日又は実施期間
<b>常設展</b> 米子城展、昔の暮らし 展、 鉄道のまち 米子の歴史展 昭和の学校、弓浜絃展 <b>開催中</b>	国史跡米子城跡、尾高城跡、鉄道資料、民俗資料、昭和の学校、米子の遺跡など郷土の歴史を透して、人々の暮らしの様子を紹介しています。 <b>観覧無料</b>	通年・随時展示替
<b>企画展「広告いろいろ展」終了</b>	米子市周辺の商店を中心に引札やチラシ、ビラなどの広告を展示	4月14日(日)～ 6月9日(日)
<b>共催展池田家墓所写真コンクール展 終了</b>	池田家墓所の写真コンクール入賞作品を展示	6月22日(土)～ 7月21日(日)
<b>館蔵品展「昔のあそび展」            ～あそびの中の学び～ 開催中</b>	館蔵品の子どもの遊びやおもちゃに関する資料を展示し紹介する。 観覧無料	8月4日(日)～ 10月14日(月・祝)
<b>企画展            「いつもはしまってある民具展」</b>	郷土の暮らしや産業を支えてきた民具や、それに関連する写真や資料を展示し、その歴史を紹介する。 <b>観覧料：300円</b>	10月27日(日)～ 1月13日(月・祝) ※関連事業：絃製作体験、唐箕体験など
<b>館蔵品展            「タムラ写真館コレクション            ガラス乾板展（仮称）            共催：米子市埋蔵文化財センター、            上淀白鳳の丘展示館</b>	令和5年度に寄贈されたタムラ写真館コレクションのガラス乾板の米子市内各所の写真を中心に、郷土の歴史を振り返る機会とする。 <b>観覧料 300円</b>	令和7年1月26日(日) ～3月30日(日)
<b>アートな散歩            「中心市街地をめぐる」</b>	公会堂などの建物やアート作品をめぐる <b>無料</b>	10月14日(祝)
<b>史跡ガイドウォーク            「尾高城下」</b>	<b>「尾高城下」をガイドする。 参加費 300円</b>	10月26日(土)
<b>史跡ガイドウォーク            「米子城下」</b>	<b>「米子城下」をガイドする。参加費 300円</b>	11月26日(土)

### 米子市立山陰歴史館



開館時間 9:30～18:00 (17:30 までに入館)

休館日：毎週火曜日 祝日の翌日 12月29日～1月3日

〒683-0822 鳥取県米子市中町 20 番地

電話/0859-22-7161 fax/ 0859-22-7160

<https://yonagobunka.net/rekishi/>

E-mail:saninrekishikan@dear.net.jp [編集：小原]

